

スポーツ健康学部

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】（参考）

スポーツ健康学部の自己点検・評価は、適正に実施されていると評価できる。質の高い教育が提供されており、教育に対する学生の満足度が全学部中のトップクラスに位置している。ヘルスデザイン、スポーツビジネス、スポーツコーチングの3コースのコース長から組織される質保証委員会が編成され種々の改善のための取り組みがなされている。2019年度の卒業研究数は、前年の59編から74編に増加している。学習時間の確保や、学習成果の可視化に関しては、それぞれ学習内容の課題設定や、卒業研究題目の雑誌への掲載など、具体的な施策の検討を望みたい。学生の国際性涵養のために、「スポーツ健康学海外演習」として提携校である米国のボイシー州立大学へ短期留学を毎年実施しているが、2019年度には「スポーツビジネス海外演習（ニューヨーク、米国）」と「スポーツコーチング海外演習（ケルン、ドイツ+バルセロナ、スペイン）」を実施し、ドイツから外国人客員教員（短期）を招きスポーツメディアに関する授業（春学期）を開講した。また「総合英語」において海外の最新情報を教育に反映できるよう外国人兼任教員2名を採用し、現代福祉学部（中国語、フランス語）、スポーツ健康学部（ドイツ語）の初級者クラスを2021年度から学部横断で開講するための準備を進めた。これらの取り組みは高く評価できる。FD活動を充実させ、小規模学部のメリットを生かしてさらに改善の歩を進めることを期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学習時間の確保のため、シラバス上で予習・復習の時間を設定し促すこととしている。また、学習支援システム上で、授業内容に関連した課題を授業中などに課し、オンラインでも双方向の意見交換を行うなど、学習成果の可視化に努める。コロナ禍における卒論研究の実施は、内容によっては3密の防止などの配慮が優先課題となるため、フィールドの確保などの課題を抱えながら進めていく必要があるが、卒業研究の意義を発信し増加につなげる。また、卒論は紀要に掲載されるとともに、抄録集は学生全員に配布する。海外から客員教員を招いての授業は、コロナ禍ではあるが、オンラインにより実施することとしている。2021年度からは中国語、フランス語およびドイツ語の受講が可能となっている。延期された東京オリパラへのボランティア参加の予定を確認している。本学部の特性上、コロナ禍による実技科目への影響は少なくないが、少人数学部の特性を生かしてオンライン化に取り組むこととしている。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学部の「2020年度大学評価委員会の評価結果への対応」のうち、学習時間の確保については、シラバス上で予習・復習の時間を設定したり、学習支援システム上で課題を提示するなど、基準を明示している点が高く評価できる。卒論を紀要に掲載するとともに、抄録を学生全員に配布していることについては、これにより学生の学習意欲が喚起されることが期待されるため、極めて優れた取組みである。また、海外からの客員教員の授業をオンラインで実施することは、コロナ禍においても学生に国際性を涵養する取組みとして大変に優れている。延期された東京オリンピック・パラリンピックへのボランティア参加の予定が確認されており、これは学生の社会活動意欲を高めるものとして効果が期待される。実技科目（スポーツ実習入門、バレーボール実習、フィットネス・トレーニング実習、テーピングコンディショニング指導論等）では、コロナ禍という制約の下、指導教員にとってはオンラインでの実施法の検討について大きな負荷がかかったと推察される。実技の代替となるよう工夫することにより、新たな展開を見出した事例もある。これらの継続とともに、さらなる改善への検討が望まれる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
--	---

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

視野形成科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門科目、専門演習科目と段階的に教育課程が提供されている。入学した学生がスポーツ科学、健康科学、スポーツ社会科学（スポーツビジネス）の基礎を学び、その上で自分の興味・関心に合った専門的な知識・技能が得られるような教育内容にしている。特に演習科目においては少人数教育を実践している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <p>・ https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html</p>	
<p>②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>1年次、「スポーツ健康学入門」で大学生活を送る上で必要な知識と学習に必要な技術を身につけ、教養として身につけておくべき「視野形成科目」も学ぶ。その上で2年次、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。同時に専任教員の専門演習（ゼミナール）に参加することでさらに高い専門分野の学びを可能にしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html</p> <p>・ 2020年度専門演習募集要項</p>	
<p>③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「人間とスポーツ」、「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」、「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生にとっての基礎となる幅広い科目を用意している。また、1年次に必修として用意されている「スポーツ健康学入門」では、大学生活への適応力を身につける。専門的な科目を受講する前提として、スポーツ科学及び健康科学分野の基礎となる「スポーツ運動学Ⅰ」、「機能解剖学」などの科目から、「スポーツ哲学」、「スポーツマネジメント論」などの科目まで幅広く配し、健康科学と社会との関わりを習得できるよう配慮している。コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができるよう配慮している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類</p>	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として「スポーツ健康学入門」を初年次春学期の必修科目とし、栄養教育、飲酒・薬物の健康影響の理解から始まり、リテラシー（含む図書館利用）、プレゼンテーション、ライティング（レポート）の方法など大学の専門科目を履修するために必要な技術、さらに留学や大学院進学に関する情報まで提供している。また、附属校あるいは要請のあった高校へは教員を派遣し、模擬授業を通し大学講義の一部を提供している。さらに、入学前にスポーツイベントに関して英語で記述する課題を出し、入学後に課題に対する評価をフィードバックしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 2020年度スポーツ健康学部シラバス</p>	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>・ 外国人客員教員（短期）を招いての授業については、コロナ禍のため予定していた2名のうち1名はオンラインにより開講することができた。</p> <p>・ コロナ禍を考慮し、学生の安全のため「スポーツ健康学海外演習」、「スポーツビジネス海外演習」、「スポーツコーチング海外演習」は中止せざるを得なかった。</p> <p>・ ERP あるいはグローバルオープン科目を開設し運営している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・現代福祉学部（中国語、フランス語）、スポーツ健康学部（ドイツ語）の初級者クラスを2021年度から学部横断で開講するための準備が整えられた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度スポーツ健康学部履修の手引き ・授業資料 	
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。 ・各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度スポーツ健康学部履修の手引き 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。年間GPAが1.0以下の学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>シラバス上で、授業前の予習時間をどの程度割くか、また授業後には復習の目的で、授業ごとに課題レポートの提出を求めている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援システム上で、授業内容に関連した課題を授業中などに課し、オンラインでも双方向の意見交換を行うなど、学習成果の可視化に努める。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目においては、オンライン授業であっても、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をしたりするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。 ・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。 ・学外での実習・演習科目に対して、学内での事前学習の時間を十分に設けている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス 	
<p>⑤それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合英語」では、能力別に1クラス20～25名程度、7クラスで実施している。 ・「専門演習」では、1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。 ・機材を必要とする実習あるいは実験科目では、学習の効率化のために事前に選抜き履修人数を調整している。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス、スポーツ健康学部履修の手引き 	
<p>⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>実習科目も含めてZoom、Google meetなどを用い、オンラインで授業に取り組んでいる。学生の理解度を把握するため、学習支援システムによりリアクションペーパー、課題レポートで評価を行っている。学習支援システム上で、授業内容に関連した課題を授業中などに課し、オンラインでも双方向の意見交換を行うなど、学習成果の可視化に努めている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定記載に基づいて適切に行っている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス 	
<p>②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員によるシラバスチェックにより、各教員の成績評価の方法を整合させている。 ・各教員に科目毎のGPAを確認するように促し、成績評価の偏りを減らすように努めている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度シラバス 	
<p>③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から3年生には、取得を希望する資格の調査を行っている。 ・就職情報はキャリアセンターからの報告を得て教員に周知している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度教授会資料</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/></p>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計し、その情報を教授会において共有している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度教授会配布資料</p>	
<p>②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>・初年次教育、ELPA テスト、「習熟度テスト」などを用いて、学部での学びを進めるための基礎的な知識や技能が身につけているかを確認している。</p> <p>・知識を実践知へ移行する学修成果を、教員免許およびスポーツ・健康関連の資格希望者数で確認している。</p> <p>・「専門演習Ⅲ」の希望者率、「卒業研究」の実施者率を用いて、専門科目の学修を確認している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>・初年次教育の「スポーツ健康学入門」では、全員に向けての講義内容の学修成果を毎回のレポートやテスト（リアクションペーパーに相当）によって確認している。</p> <p>・ELCA テストは、結果を学生にフィードバックするとともに、教授会でも得点の分布や変動を確認している。</p> <p>・「習熟度テスト」は、学年ごとの平均得点、自分の得点と順位を学生にフィードバックしている。</p> <p>・海外留学生、教員免許取得者、スポーツ・健康関連の資格取得者、卒業研究実施者を教授会で確認している。また、卒業研究の発表会によって学修成果を確認している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度教授会資料</p>	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・学年別に GPA の推移を教授会で共有し、コースごとの GPA から学習成果を確認している。また最終的な成果として卒業研究発表会での優秀発表者を選出して表彰した。</p>	
<p>【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2020年度教授会資料</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。</p> <p>・特に問題と思われる学生に対してはゼミ担当教員あるいは執行部教員が個別指導を実施している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020年度教授会資料	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・授業改善アンケートの結果、自由に記載された学生の意見は執行部が確認し、必要に応じて教授会で共有している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020年度教授会資料	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・1学科の小規模学部なので、学生間、教員間の連携・支援は良好といえよう。 しかし、他コースと比べて教員数が少ないスポーツビジネスコースの科目、そのための教員のさらなる充実を図りたい。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・オンデマンド授業を2020年度に収録し、授業で活用した。	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、学生の能力育成のために、基礎科目から専門科目まで、教育課程が体系的に生まれ、それらが段階的に提供されている。これにより学生の学習成果が定着し、十分な効果が上がることが期待できる。また、1年次の入門科目や「視野形成科目」で基礎的な知識、技術、教養を身に着けた上で、2年次には将来を見据えて3つのコースから選択できるようになっている。これは学生の豊かな人間性を涵養するとともに、専門性を高める上で極めて優れたカリキュラム編成である。学生の国際性を涵養するために、外国人客員教員を招聘し、コロナ禍でありながらも、オンラインで授業を実施するなどの工夫をした点は高く評価できる。コロナ禍のために中止せざるを得なかった「海外演習」については、次年度以降の実施と成果が期待される。学生の履修および学習指導は適切に行われ、成績不振者への対応もきめ細かく実施している。授業形態についても、コロナ禍という制約がある中で、オンラインや学習支援システムを存分に活用しており、また語学、演習等においては少人数のクラス編成にする等の努力がみられ、学生の学力向上に大きく寄与している。成績評価と単位認定は適切かつ厳正に行われており、学生の成績分布や進級状況なども学部単位で把握している。学生の学習成果を定期的に検証し、教育方法の改善、向上に向けた取組みを定期的に行っており、それらが教授会構成員間で共有されていることも高く評価できる。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。 【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。 ・大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入	
・特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入	
・特になし	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入	
・毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行している。 ・総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況を教授会等で共有している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入	
特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入	
・2020年度教授会資料	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
※取り組みの概要を記入	
実習科目についてオンライン授業での取組の具体的内容について共有している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入	
・2020年度教授会資料	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行し、教員の研究成果が公表されている他、総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況が教授会等で報告されている点は評価できる。COVID-19への対応については、実習科目についてもオンラインでの授業を行う等、工夫がなされていることは高く評価できる。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。
①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
・アスリートの推薦入試に際し、全国規模の大会が中止となるなか、全校規模に匹敵する大会やその取組を評価の対象とした。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・卒論発表会については、オンラインで実施した。 ・オンライン授業に際し、学習環境を確保するため、パソコンの貸し出しとともに、通信環境が思わしくない場合には普通教室を開放し受講できるよう便宜を図った。 ・フィットネススタジオは、感染防止のための使用基準を作成している。
<p>【根拠資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試応募要領 ・卒論発表会プログラム ・2020年度教授会資料 ・フィットネススタジオ使用基準

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部では、アスリートの推薦入試に際し、全国規模の大会が中止となるなか、全校規模に匹敵する大会やその取組を評価の対象とする等の工夫がなされた。オンライン授業に際しては、パソコンの貸し出しや普通教室の開放によって、良好な学習環境が確保されるように便宜を図った点は、極めて高く評価できる。また、卒論発表会はオンラインで実施し、また、フィットネススタジオの使用にあたっては使用基準を設定する等、感染防止策が徹底してなされている点は高く評価できる。</p>
--

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をとおして創造性教育を推進する。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質保証のためにシラバスの検討を継続する。 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者を増加させる。特に4年生の学習時間確保のために専門演習Ⅲの履修希望者、卒業研究の実施者を増加させる。 ・2021年度諸語初級者クラス開講の準備を進める。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・諸語初級者クラスの開講準備を指標とする。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3月に質保証委員会によるシラバスチェックを実施した。 ・専門演習の履修希望者数の推移（'18→'19→'20）は、Ⅰで92%→90%→84%、Ⅱで84%→86%→81%、Ⅲで44%→45%→42%と今年度少し下降した。 ・卒業研究数の推移は、34.9%→37.4%→29.4%（57件）であり、昨年度に比べると下降した。 ・担当教員を確保し、現代福祉学部と調整して2021年度よりドイツ語初級者クラスを2コマ（火4,木4）開講する準備が整った。
		改善策	<p>専門演習Ⅰの履修は年次に希望を出すので1年次開講の「スポーツ健康学入門」の各コースの教育・研究の紹介時に履修を促す。また、学生による専門演習のガイダンスを継続して充実させる。</p> <p>卒業研究数は当初81件の執筆予定者であったが、57件に減少した。執筆のための調査・測定の実施においてコロナの影響を受けたと考えられるが、その影響を見越した研究計画を立てるように促す。</p>
	質保証委員会による点検・評価		
所見	<p>質保証委員会によるシラバスチェックは期間内に実施されている。一方、今年度の専門演習履修希望者数及び卒業研究数の減少は、その理由が想像を超えるコロナ禍によりオンライン対応を余儀なくされたためであるとはいえ、当初の目標を達成することができなかった</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			点については改善が求められる。諸語については、次年度に向けて整備が進められており評価できる。
		改善のための提言	今後のコロナ禍が予測できないことから、20 の経験を活かし、オンライン授業となった場合にあっても、「スポーツ健康学入門」や学生による専門演習のガイダンスの機会を有効に活用し、専門演習及び卒業研究執筆の意義が学生に浸透するよう働きかける。特に、卒業研究は、オンライン授業を踏まえた研究計画の立案により前向きに取り組むことの達成感を感じられるようにすることが求められる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。	
	年度目標	授業相互参観、アクティブ・ラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進する。	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・アクティブ・ラーニングへの取り組み状況を指標とする。 	
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数は16科目で、'19の18科目から減少した。 ・コロナ禍によるオンライン授業の導入、さらに秋学期からの双方向オンライン授業の促進により、アクティブ・ラーニングへの取り組みは改善されたものと考えられる。
		改善策	コロナ禍によるオンライン授業導入の影響があるので、授業相互参観数の減少については改善策を考えていない。しかし、参観数自体はさらに増加するように教授会で周知する。
			質保証委員会による点検・評価
	所見	授業相互参観については、コロナ禍の影響を受けたものでありオンライン授業では困難が予想されたなかで、16科目において実施できた点は評価できる。アクティブ・ラーニングについては春学期の経験を踏まえ、オンライン授業での双方向アクティブ・ラーニングが促進されており評価できる。	
	改善のための提言	今後も授業相互参観については、教授会での呼びかけを継続することが望ましい。アクティブ・ラーニングについては、オンライン授業であっても対面であっても双方向の形態をとるよう教授会で呼びかけることが望ましい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	2018年度から開始された新カリキュラムおよび100分授業移行後の教育効果を測定し評価する。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度テスト」の平均値60%以上を維持する。 ・2年次のTOEFLの平均値が1年次のそれを上回るようにする。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度テスト ・TOEFL それぞれの平均値を指標とする。	
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で習熟度テストを実施できなかった。 ・コロナ禍で1年次のTOEFLを実施できなかったため、2年次との比較はできなかった。また全学的な要請により今年度からTOEFLに変えてELCAを採用し、2年次の平均値は593点(65.9%)であった。
		改善策	コロナ禍が継続するのであれば、習熟度テストのオンライン実施を検討する。ELCAの継続により、1,2年次を比較できる指標を取得する。
			質保証委員会による点検・評価
	所見	2年生にELPAを実施することができたが、コロナ禍の影響により、予定された習熟度テスト、1年生のTOEFLを実施できず、その代替措置をとれなかった。学年別GPA、累積GPAの詳細は教育成果として教員に展開されている。	
	改善のための提言	教育成果は複数の観点から測定・評価する必要がある。今後のコロナ禍の状況を鑑みて、その測定・評価の実施方法を模索することが求められる。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年2名を満たすよう努力しSGUを推進する。	
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。	
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	推薦入試でスポーツ6/6、指定校3/10、付属校25/24、特別入試でA018/20、トップアスリート1/0、留学生入試で1/5、一般入試で共通テストB7/17、T日程19/25、英語外部7/5、A方式98/82となり、合計185/185であった。留学生の募集人数を満たせなかった。
		改善策	指定校推薦と留学生入試の不足分を一般入試でカバーしたが、指定校については初年度であったために普及までにはしばらく様子をみたい。一方の留学生入試はコロナ禍の解消を待ちたい。
質保証委員会による点検・評価			
所見	コロナ禍の影響から留学生入試および初年度であった指定校入試において募集人数を満たせなかったが、定められた募集人数は満たしており、適切であると判断できる。		
改善のための提言	今後も募集人数の規定数確保、入試制度の配分の健全化に努めるとともに、2年目を迎える指定校入試に関しては、実績や入学者の追跡調査により、指定校の適切な選別のための情報蓄積を望む		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。	
	年度目標	年間を通して学部専任教員数を維持する。	
	達成指標	年度末の学部専任教員数/年度始めの学部専任教員数を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	年度末の学部専任教員数16名/年度始めの学部専任教員数16名で維持した。今年度で任期満了の専任教員1名を補充できた。さらに10月採用とはなったが、来年度教職に関わる専任教員1名を増員できた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	年度末の学部専任教員数は、規定教員数が適切に確保、維持されている。本年度における任期満了に伴う専任教員の補充および定員増による1名の専任教員の増員は規定に基づき適切に実施されている。		
改善のための提言	—		
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。	
	年度目標	・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメント等の相談窓口の明確化 ・学生モニター制度グループインタビューの実施	
	達成指標	・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・グループインタビューの実施を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由	・教員のオフィスタイム、ハラスメント等の相談窓口を履修の手引きに明確化した。 ・コロナ禍で学習モニター制度グループインタビューを実施できなかった。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	改善策	コロナ禍が継続するのであれば、オンラインによるグループインタビュー実施の準備をする。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	学習支援システムやシラバスでの授業担当教員の連絡手段（メールアドレス）の表記を周知したため、講義に関する質問などについては円滑に連絡が取れていた。しかし、生活面に対しては相談窓口の明確化や学生への周知が課題である。	
	改善のための提言	次年度の授業実施形態が確定できない状況で、特に新入生、2年生には授業、生活面での不安を軽減できるよう授業内での教員による声かけや相談窓口の明確化、学習モニター制度グループインタビューによる現状把握が求められる。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進	
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす	
	達成指標	社会貢献・社会連携に関わる ・授業科目数 ・科目履修学生数を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	・授業科目数（履修学生数）は5科目であった。 「スポーツレクリエーション論」（111）「スポーツジャーナリズム論（放送）」（65）「スポーツ政策論」（52）「保健体育科教育法Ⅰ」（18）「保健体育科教育法Ⅱ」（17） 多摩将来計画の中でスポーツによる地域連携を提案した。
		改善策	昨年度の4科目より増えたが、まだ十分とは言えない。教授会において、社会貢献・社会連携の重要性を改めて教員に周知する。
質保証委員会による点検・評価			
所見		昨年度より、1科目増えたことは評価できる。SDG's推進の取り組みと合わせて社会貢献・社会連携に関わる講義を行うなど各教員の講義レベルでの取り組みも実施されているが今後継続的な取り組みが必要である。	
改善のための提言	社会貢献・社会連携に関わる授業科目数、科目履修学生数を継続的に増やすため、各教員の社会貢献・社会連携の重要性の再認識が求められる。		
<p>【重点目標】</p> <p>専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数を増加させる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次研修の「スポーツ健康学入門」において、各コースの研究・教育について紹介する。 ・学生による専門演習Ⅰのガイダンスを充実させる。 ・卒業研究の抄録集を学部生全員に配布する。 ・2,3年生に卒業研究発表会への参加を促す。 <p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>上記の目標を達成するための施策を実行したが、コロナ禍の影響を受けて達成状況は芳しくなかった。特に専門演習Ⅲの履修希望者数はある程度（81名、42%）確保できたが、卒業研究数（57名、29.4%）になると大きく減少してしまった。コロナ禍に対応する知恵を蓄積できたことが次年度へ向けての糧である。</p>			

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

スポーツ健康学部における2020年度の中期目標、年度目標及び達成指標は適切に設定されている。年度末の目標達成状況では、オンデマンド授業の実施にともない、授業相互参観数は減少したものの、双方向オンライン授業の促進により、アクティブ・ラーニングへの取り組みは改善し、卒業研究数が顕著に増加したことは高く評価できる。教員組織については、補充人事が適切に行われている点が評価できる。COVID-19の影響により習熟度テストが実施できなかったこと、留学生の募集人数を満たせなかったこと、学生モニター制度グループインタビューの実施ができなかったことについては、質保証委員会からその改善が指摘されている。これらは次年度目標にも引き継がれているため、質保証委員会からの提言を踏まえていただき今後の対応に期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2018 年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の 1 年生が卒業年度を迎える 2021 年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をととして創造性教育を推進する。
	年度目標	コロナ禍を踏まえ、学生及び教員間の意思疎通を図り、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修を促す。専門演習Ⅰの履修は 1 年次に希望を出すので 1 年次開講の「スポーツ健康学入門」の各コースの教育・研究の紹介時に履修のメリットが理解できるようにする。また、学生による専門演習のガイダンスを継続して充実させる。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・諸語初級者クラスの受講者数を指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む
	年度目標	オンライン、ハイブリッド授業など様々な授業形態での学生満足度を高める。授業形態にかかわらず、授業相互参観、アクティブラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・アクティブラーニングへの取組状況を指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018 年度から開始された新カリキュラムおよび 100 分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果として「習熟度テスト」により、学習成果の改善を図る。 ・昨年度から導入した ELPA によるテストの平均値が 1 年次で 1 年次のそれを上回るようにする。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度テスト」 ・2 年次の ELPA の平均値を指標とする。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年 2 名を満たすよう努力し SGU を推進する。
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	年度目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	達成指標	年度末の学部専任教員数／年度始めの学部専任教員数を指標とする。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメントなどの相談窓口の明確化 ・学生モニター制度によるグループインタビューの実施
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・グループインタビューの実施を指標とする。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす
達成指標	社会貢献・社会連携に関わる ・授業科目数 ・科目履修学生数を指標とする。
<p>【重点目標】 専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修希望者数を増加させる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次研修の「スポーツ健康学入門」において、各コースの研究・教育について紹介する。 ・学生による専門演習Ⅰのガイダンスを充実させる。 ・卒業研究の抄録集を学部生全員に配布する。 ・2,3年生に卒業研究発表会への参加を促す。 	

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

スポーツ健康学部は、2018年度からの新カリキュラムに基づき、中期目標および年度目標は適切に設定されており、達成指標も具体的に示されている点は高く評価できる。コロナ禍での制約により実施できなかった習熟度テストや学習モニター制度によるグループインタビュー、留学生の獲得については、次年度以降の実施に向けて対策が求められる。社会貢献・社会連携科目については、理論と実践の両面から捉えるべきとの観点から、4科目(理論的アプローチ3科目+実践的アプローチ1科目)が設置されている点が評価できる。今後の成果とさらなる改善への努力を期待したい。

【大学評価総評】

スポーツ健康学部の自己点検・評価は適切に実施されていると評価できる。基礎教育および専門教育において質の高い教育が提供されている他、少人数制クラスの授業を増やすなど、丁寧できめ細かい指導が行われており、当該学部における教育に対する学生の満足度は本学の全学部の中で上位に位置している。昨年増加した卒業研究数が一昨年とほぼ同数にまで減少したが、これはCOVID-19の影響もあるとみられ、オンライン授業の工夫により、減少数は最小限に抑えられたと考えられる。学生の国際性の涵養のために、海外から外国人教員を招聘し、オンラインで授業を行ったことは極めて高く評価できる。次年度以降は、コロナで実施できなかった学生の短期留学にも期待したい。また、「総合英語」については、学部横断的なクラス編成にしたことは、学生の視野を広げる上で優れた取組である。教員組織についても、適切な人事が行われており、今後はさらにFD活動を充実させて、研究・教育のますますの質の向上を図ることが期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。